



便利グッズ紹介 (その4)

感覚に特異性のある子どもの多くはブランコ等の不安定な感覚を楽しむ「ゆらゆら遊び」を好みます。

しかし、雨が降って公園へ行けない、とか身体が大きくなってお尻が座面からはみ出してしまふ、等の理由で「ゆらゆら遊具」を使えないことがあると思います。

ブランコやトランポリンほどではありませんが、室内でそれに近い楽しみ方ができるものとして、以下の2点を紹介します。



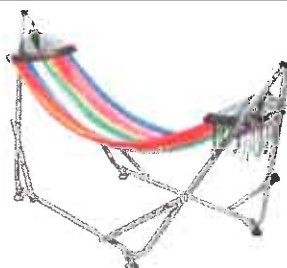
(上) スカイ (エア) ウォーカー

運動器具ですが、空中を歩くような独特の感覚が楽しい様です。以前紹介した「ジョーバ」同様、リサイクルショップ等で安価で購入できます。

(下) 折りたたみハンモック

庭や室内など、木が無い場所でも設置できる折り畳み式のハンモック。「ゆらゆら」感の調整もできます。

(写真) ハンモックでくつろぐ中学生のR君



特に中高生がハンモックに乗ってくつろぐ姿は、格好良くて大人っぽいです。

「ゆらゆら遊び」が好きな子が、「必ず楽しめる」とは限りませんが、ご家庭でも活用していただければ素敵なアイデアの一つとしてご紹介させて頂きました。

デイサービス通信

非おもてなし



デイサービスの役割は、『できる限り在宅生活を支えること』は言うまでもありません。

「おもてなし」がもてはやされる昨今だが、「非おもてなし」の観点で「自立支援」を考える必要がある・・・「上げ膳据え膳でただ気持ち良く過ごすことをよしとする顧客満足度だけを追求するのは、介護保険で行うサービスではない」月刊ケアマネジメント誌の掲載記事を読んで、デイサービスまごころの場合も考慮しました。

自分の靴は靴箱へ、自ら出し入れする。上着をかけて、手荷物を所定の場所へ置く。配膳・下膳の手伝いを進んで行く。作業の片づけを手伝う等・・・

「皆さん、寝たきりにならないためにも、自分の身の周りのことはすすんでやりましょう！」を合図に協力をしてもらっています。

「サービスは人の為にならず」結局は自分の意思で動けることが第一。

3月のはじめにしだれ桜の切り絵を皆さんで作ってもらい、窓ガラスに飾りました。満開の桜が見事でした。牛乳パックで作った『飾り箱』の製作もし、「何を入れる？」と喜んで持ち帰られました。



ふれあい広場の窓

心っれづれ



読書について

昨年 11 月頃から、何年か前に買った本を読み直していました。その中には、何回読んでみてもその都度、自分自身の考え方をみつめ直すきっかけを与えてくれる本がありました。

一方、どうしてこの本を買ったのだろうと考えてしまう本もありました。当時は読みたいと思ったはずなのですが、今ではその内容に興味を持てませんでした。また、買って読んだ時には期待はずれだったのに、数年振りに読んでみると、こんなに良い内容だったのかと驚いた本もありました。

そこで、どうして同じ本なのに、その感想が変化したのかと疑問に思っていたところ、ある本の一文が目にとまりました。それは、「心が変わると不思議なもので、ものの見方、ものに対する感じ方、考え方もガラリと変わってくるのです」というものでした。その言葉から、本を買って初めて読んだ時の私と、数年後に読んだ時の私とでは、考え方やものの見方が変化しており、だからこそ同じ本を読んでも、その感想が変化したのではないかと。振り返ってみると、これらの本を買って読んでいた頃は、いろいろ悩み、迷っていた時期でした。しかし、今ではその頃の悩みや迷いは無くなっている様に思われます。この心の変化が、考え方やものの見方の変化に繋がったのではないかと思ひ至りました。

このことから、本を読むという行為が、心の変化を感じる事の出来る一つのモノサシにもなるのではないかと考えている今日この頃です。

協力会員 高尾征伸



ヘルパーだより

NO.23

「いいことあるぞ〜ミス〇ードーナツ♪」といつも陽気な歌を口ずさんでいるAくん。自閉症を持つAくんの移動支援は5歳のときから始まり、8年続いています。その中で、とても印象に残っている公園があります。

当時、その公園にはいつも大勢の子どもたちが遊びに来ていました。もちろんAくんもその中に入り、同じ遊具で遊びます。しかし、遊具の上で立ち止ってピョンピョン跳ねたり、同じ所を行ったり来たり、急に大声を出したりと他の子がびっくりしてしまうことが度々ありました。そんな時、Aくんに声をかけつつ、周りの子にも「そこから見える景色が好きみたい」と少しAくんの気持ちも伝えながら共に楽しめるように配慮していました。

ある時、遊具上でオニゴッコをしていた年下の男の子たちが、夢中でAくんの方へ走ってきました。すると、一人の子が「ストップ! Aくんいるから止まって!」と友だちの動きを止めました。ふらつく遊具を慎重に渡るAくんを気遣ってくれたのです。その公園では、Aくんを見守ってくれる子どもが多く、「次は右足をここだよ」と嬉しそうに遊具の渡り方を教えてくれる子もいました。

支えられながら地域で暮らしていく、子どもたちは当たり前前にできているんだなと、地域に溶け込んで遊ぶAくんを見て嬉しく思ったものです。



ご家族からのことば・・・

遊具で遊べないくらい長身になりました。今の年齢に合った場所で、また素敵な出会いがありますように・・・